令和８年３月４日

足立区立東綾瀬中学校
校長　渡邊　英晴　様

足立区立東綾瀬中学校 開かれた学校づくり協議会

令和７年度　学校関係者評価書

１　自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

１　自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

〇学力向上については、サマースクール等において近隣小学校教員や大学生ボランティアを活用するなど、地域資源を生かした取組を継続しており、その成果として全般的に正答率向上が見られる点は評価できる。一方で、年度末達成度確認テストにおいては、学年や教科によって目標達成率に課題が見られることから、成果と課題を丁寧に分析し、より効果的な指導改善につなげていくことを期待する。

〇ＩＣＴ活用については、ＡＩドリルの活用や授業内でのＩＣＴ機器の効果的な活用が定着しつつある。しかし、教科や教員間で活用状況に差が見られる面もあるため、校内研修や実践共有を通して、学校全体としての指導力向上を図ることが望まれる。

〇生徒の自己肯定感向上や居場所づくりを目的としたＰＢＳの取組を継続し、綾瀬地区の小中連携の視点と関連付けて推進している点は評価できる。今後は、ＰＢＳの考え方をベースに、９年間を見通したＩＣＴ機器の活用法をみいだし、子供たちの知識や学力、興味・関心を高められるようにしてもらいたい。学校の自己評価は概ね妥当であると考える。

２　学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

昨年度実施された新校舎改築及び開校６０周年記念事業を経て、本年度は新たな学校環境のもとでの教育活動の充実が図られている。新校舎での学校生活も落ち着きを見せ、生徒の活動は概ね安定している。

一方で、今後の課題として、新校舎という新たな教育環境をどのように教育活動の質の向上につなげていくか、また、生徒や地域にとってより開かれた学びと交流の場としてどのように活用していくかという視点が重要である。施設の充実を目的化するのではなく、その空間を生かした学習活動や地域との協働の在り方を具体化していくことを期待する。

また、地域行事への参加や地域との協働活動を継続する中で、生徒が地域の一員として主体的に関わる機会をさらに広げていくことも望まれる。

３　その他

ＰＢＳの取組の一環として、生徒会を中心に「東中スタイル」を掲げ、「あいさつ」「時間」「思いやり」「ルール」の四つのキーワードのもとに実践していることは大変意義深い。特に、放課後の訪問時に見られる部活動生徒の挨拶は大変素晴らしく、学校の良さを感じる場面である。

今後は、校内全体での挨拶のさらなる定着と、生徒自らが主体的によりよい学校風土をつくっていく姿の広がりを期待したい。